

S P R I N G 1 0

MONOTSUBUKURI

ものづくり大学通信

01 ものづくり大学特別公開講座

02 連載・研究紹介

03 連載・ものづくり考

04 トピックス

05 ものづくりインフォメーション

06 学生・卒業生のページ

07 イベント開催案内



SAKUJI YOSHIMURA
吉村作治

【略歴】

1943年東京都生まれ。
サイバー大学学長、早稲田大学客員教授、工学博士（早大）、エジプト考古学者。
1966年アジア初の早大エジプト調査隊を組織し、現地に赴いて以来、40年以上にわたり発掘調査を継続、数々の発見により国際的評価を得ている。2007年株式会社立で日本初・完全インターネット講義によるサイバー大学の初代学長に就任。

平成21年度ものづくり大学特別公開講座
「エジプト発掘の魅力」～エジプト調査隊・発掘レポート～

日時：2010年2月18日（木） 14:30～16:30
場所：パレスホテル大宮4階ローズルーム
来場者数：250名

＜プログラム＞・主催者挨拶

- 学校法人ものづくり大学 石岡慎太郎理事長
- 社団法人埼玉県経営者協会 利根忠博会長
- ものづくり大学紹介
- 技能工芸学部長 飛内圭之教授
- 吉村作治先生講演
- 閉会挨拶
- 建設技能工芸学科長 白井裕泰教授



石岡理事長

利根会長

白井学科長



＜講演＞

講演では、先生が大学生であった頃から40年以上に渡るエジプトでの発掘調査の逸話や考古学の楽しさについてお話下さった。マルカタ南「魚の丘」遺跡（写真①）より彩色階段の発見、青いミイラマスクを付けた未盗掘・完全ミイラ「セヌウ」の木棺（写真②）の発見、エジプト学史上非常に珍しい「親子のミイラ」が埋葬されている未盗掘墓の発見、ラムセス2世の孫女



写真①



写真②

墳墓の発見、さらには、古代エジプト最古の大型木造船「第2の太陽の船」を発掘・復原する最新のプロジェクトなど、エジプト考古学史上における数々の世界的な業績を中心に、ジョークを交えた軽妙な語り口でお話下さった。また、発掘調査における発掘権の獲得や資金調達の困難さについてご披露頂くとともに、東海大学との共同研究として人工衛星の画像解析による発掘地点の選定、電磁波地中レーダーによる遺跡探査、DNA解析によるミイラの人



写真③ 第1の太陽の船

物特定など、分野を横断した現代の科学技術の粋を結集して調査されていることなど、一般に考えられる考古学のイメージとは異なる一面もご披露された。
会場は、終始笑いに包まれ、テレビなどで拝見する印象そのままのお人柄とエジプト考古学に賭ける情熱と無尽蔵のバイタリティを垣間見ることができ、大変楽しいひとときを過ごすことができた。また、用意された250席が満席となり、先生の研究活動に対する多くの方々の関心の高さがうかがえた。

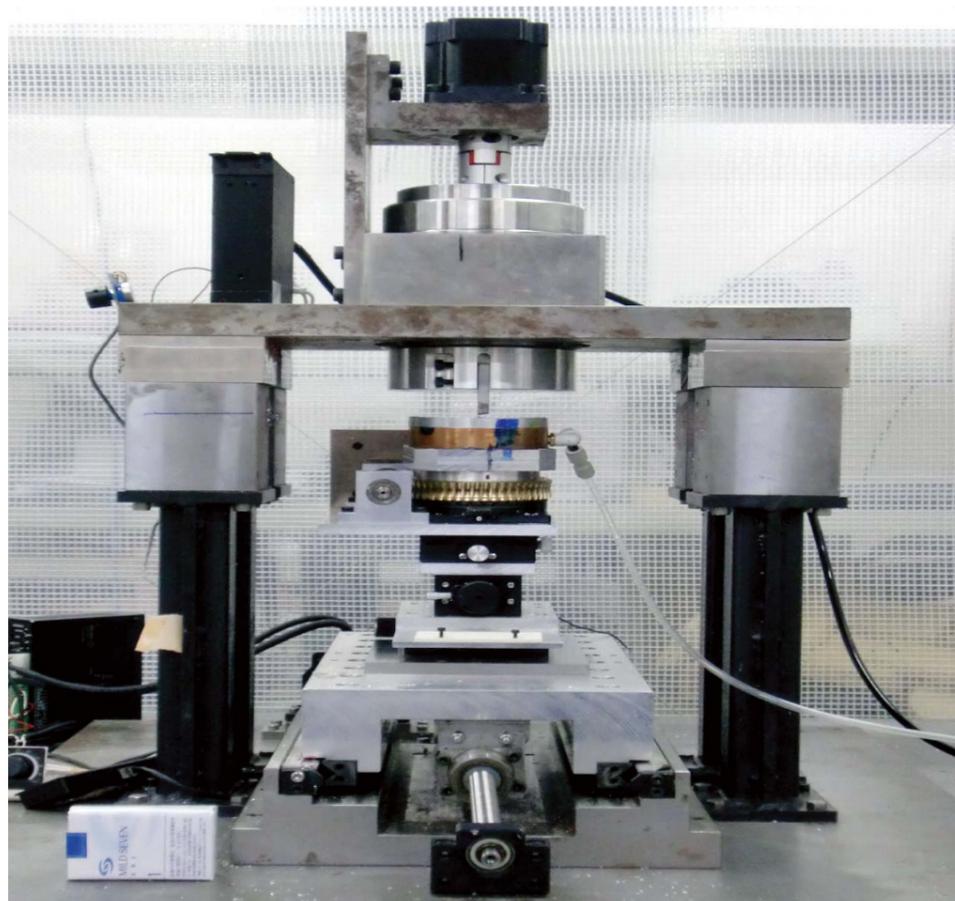
精密機械の設計開発と部品加工技術研究

製造技能工芸学科 教授 神谷 聖志 (かみや・まさし)

本研究室では、精密機械の精度向上と一般民生用機器の機構開発を行っている。

精密加工機械の精度向上—平面、球面鏡の加工機

映像機器の発展に伴って各種の光学部品の高精度化が進んでいる。半導体ウェハーなどでは表面粗さは nm オーダーとなり、金型をはじめとする金属材料においても精密研磨加工などによって $1/100 \mu\text{m}$ を達成している。しかし、それらの工作機械は一般的には高価であり、簡易な機械でそれらの精度を維持することは難しい。そこでワーク径 150mm 程度、研磨が難しい軟質金属（銅、アルミニウムなど）を材質とした精密平面、球面鏡をダイヤモンド切削加工用 5 軸加工機を設計試作して特性を評価した。写真①はその機構概要であり、市販の微動機構などを用いて低コスト化した。前後左右 (X, Y) の平面移動、ワークを回転、傾斜させ、工具を回転する機構を備えており、前後の移動機構または回転機構ワーク傾斜と回転機構で、平面、球面を加工できる。単結晶ダイヤモンド工具に加工実験したところ、表面粗さ $Ra 0.01 \mu\text{m}$ 以下、球面局率半径誤差 0.1% (1.5m に対して) を得た。機械加工による平面精度としては目標値に達したが、球面加工では形状誤差と表面に多少のスクラッチなどを生じた。今後は、機械の運動精度が加工面に与える要因を検討し、その向上を図る。また、切削速度の高速化、5 軸機構の制御特性の向上による非球面加工にも展開し、民生部品生産に供する予定である。



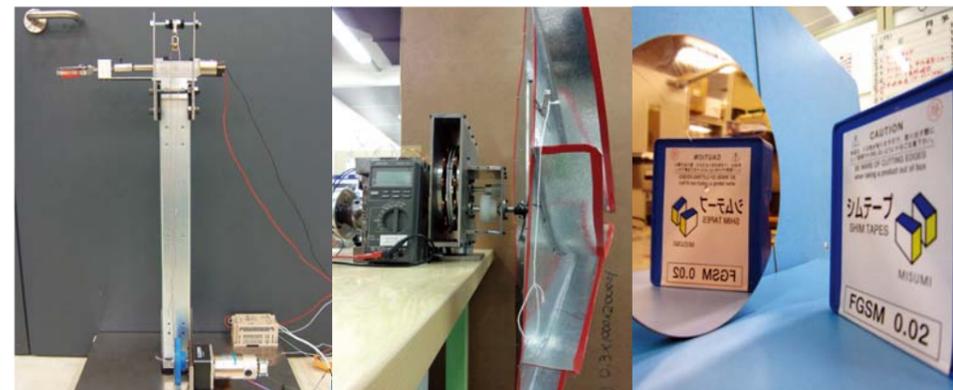
写真① 5軸加工機

一般民生用機械の開発

エネルギー、農業、介護などに用いる機器開発は、産業界においても日進月歩である。本研究室では、それらの分野において基礎的な機構設計に関する教育、研究を行っている。以下に設計試作した機器について紹介する。

写真②は高木果実（りんご、みかんなど）を収穫するためのロボットである。先端の摘み取り機構は垂直に立てられたスライドレール上に搭載され、ワイヤー巻き上げ機構によって上下する。さらに、はさみは直動モーターで目標とする果実に向かって移動し、開閉することによって切断、把持し、収穫することができる。目標の柿などの収穫は可能であることが分かった。今後、目標位置への水平移動機構と目標果実位置検出機構（小型カメラなど）を付加し、遠隔操作による収穫を可能にして行く予定である。

写真③はエネルギー対策として考案した小型風力発電装置である。構造は風力で回転する風車部、増速ギア部、発電機からなる。発電機は複数の永久磁石とコイルを対向させた 2 重構造で効率化を図った。現状では、発電機の磁気トルクを超える風車の回転数が得られず、目標の 100W 級の装置としては不十分である。風力を効率的に取り込む風車機構と高速回転機構の改良によって、家庭用製品に適用したいと考えている。



写真② 収穫用ロボット

写真③ 風力発電機

写真④ 凹面鏡 (曲率半径 1.5m)

製造技能工芸学科 教授
神谷 聖志 (かみや・まさし)

【略歴】

東京工業大学 大学院卒。工学博士。
株式会社 東芝生産技術研究所、東芝セラミックス株式会社 開発研究所長を経て現職。企業時代はコンピュータメモリーやDVDの実用化のために、金属、セラミックスの精密加工や半導体、光応用の研究に従事。大学ではセラミック成形応用、工学基礎実験、改善提案演習等の授業を担当。授業のモットーは「わかるまで教える」。



卒業生は今

日本樹脂工芸株式会社 鶴岡 宏樹（つるおか・ひろき）
（製造技能工芸学科 2008年3月卒業）

「卒業生の働きぶりをもっと知りたい。」という多くのアンケートにお答えして卒業生、鶴岡宏樹さんに聞き取り取材を行いました。今までの「ものづくり考」と少し趣向を変えています。ものづくり大学を卒業して、就職して数年……。その中で、ものづくりに関わり、得たこと感じたこと、読者のみなさんに感じ取ってもらえれば幸いです。（製造技能工芸学科 松本）

現在主に携わっている業務

2008年3月に卒業し、会社（日本樹脂工芸株式会社：川口市）に勤めて2年を経過して早いもので3年目を迎えました。アクリルを主な素材として、設計、加工、接着などを行い、製品として出荷。ショッピングストアやコンビニエンスストアに商品棚などを製品として納品しています。皆さんの身の回りで見かける製品も私たちが製作したものかもしれません。アクリルといっても種類も幅多く、色、外観、形状、製品工程を含めて、さらに湿度なども影響を受けやすいのでその取扱いには非常に多くの注意をはらいます。

大学で役に立ったこと

2次元CAD（コンピューターによる機械製図）の演習が役に立ちました。それから、実際の業務に携わって実感したことです。図面作成、加工、接着作業など複数の作業工程を同時にこなしたりする場面で頭を切り替えて、素早く行動することが必要な場面があります。これは、学生時代に多くの実技実習を経験したことが役に立っていると改めて気づいた点です。

仕事をしているの手ごたえ

先日のことですが、自分で図面を最初から全て設計し、そしてその図面をもとに、加工して実際の形になったときにものづくりを行っている実感、手ごたえを感じました。素材が加工されて製品になるまでの一連のストーリーを経験できることにもやりがいを感じています。



集合写真



後輩佐竹氏

社会人として

加工などの経験は大学時代でもいくつか経験していることなのですが、製品をお客様が手にとるときに「安全面」、「外観」、そして「完成度」など色々な面を配慮して完成させていくことのこだわりが重要な点であるとつくづく感じています。

「商品に対する気持ち」、「お客様への心配り」を大切に今後も取り組みたいと考えています。

入社時と現在を比べて

率直に言うと「図太く」なった（笑）かもしれません。

以前は納期が近付いたり、いくつもの業務が重なったりすると一人で慌ててしまうようなことが多々ありました。最近では、少し落ち着いて対処できるようになったのでほんの少しかもしれませんが、たくましく？ 成長したのかなとも思います。やはり、実務として経験を重ねることが大切ですね。

同期生との交流

先日も大学の同期生約20名のメンバーで集まってお花見をしました。

在学時、配属研究室も異なりますが、1年生の頃からの仲間です。最近でも近況など連絡を取り合ったり、大学の学園祭に遊びに行ったりもしています。会社では大学のインターン生も受け入れています。昨年のインターン生も一緒にお花見に参加したりと交流の輪がますます広がっています。卒業してからもこのような仲の良いメンバーが得られたこともかけがえのない財産ですね。

今後について

ベテラン先輩の方々のノウハウ、経験を少しずつでも学びたいと思います。もちろん、短期間で習得することは難しいですが、技能の蓄積を私たち若い世代がどう受け継ぐか大切であると思います。また、大学のレーザー加工機やNCなど機会、時間が許せば、さらに深く学び直してみたいと思います。今年4月から大学の後輩（注：佐竹 修一氏：野村研究室OB）も入社し、さらに、6月からインターン生が1名来るそうなので後輩との交流も楽しみにしています。ものづくりに関わって日も浅いし、未熟な点もありますが、これからもっともっと経験を重ねて立派な技術者になりたいと思います。

ものづくり大学 製造技能工芸学科
2008年3月卒業 4期生：松本研究室OB
鶴岡 宏樹（つるおか・ひろき）

【略歴】

日本樹脂工芸株式会社（埼玉県川口市）にてアクリルを素材として図面、加工、接着などものづくり全般を主に従事。



学長対談

鑄造用木型・金型とものづくり

熊谷市（旧妻沼町）出身の田口貞一氏により昭和22年に創立された田口木型工所が前身。貞一氏は昭和44年に木型業界で初めて「卓越した技能者：現代の名工」に選ばれ、そのご黄綬褒章と勲六等単光旭日章を授かっている。現社長の田口順氏は貞一氏の次男であり、早稲田大学金属工学科を卒業と同時に田口型範に就職、平成元年に40歳で社長職を引き継ぎ現在に至っている。2007年には経済産業省から「元気なモノ作り中小企業300社」に選定され、現在、埼玉県「ものづくり研究会会長」を務めている。主にディーゼルエンジンのシリンダーブロックやシリンダーヘッドなどの鑄造用木型・金型の製作に関してリーダー格の企業である。従業員数は117名。



日時：2010年3月19日
場所：株式会社 田口型範
対談相手：田口型範社長 田口順氏（写真：右）

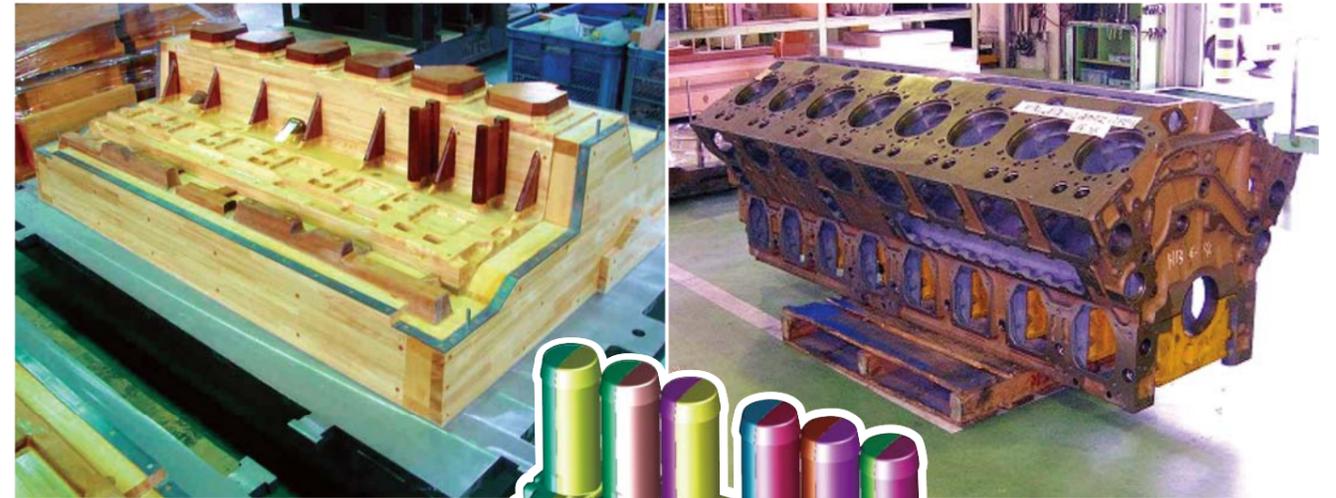


写真1：姫小松で作られた砂型鑄物用のシリンダーヘッド木型

写真2：木型を元にした砂型鑄型で鑄造されたV16気筒ディーゼルエンジン



写真3：CADのCG内で作成したエンジンシリンダーブロックの鑄造に用いる中子の6気筒分の配置

神本：まず木型と金型の違いについて教えてください。

田口：鑄造用の型には木型と金型があります。写真1は姫小松材で造られたエンジンシリンダーヘッドの木型で、500-1000回の使用に耐えます。試作用や少量生産の型として使われます。写真2は弊社の木型を元に鑄造されたV16気筒ディーゼルエンジンの重量2トンのシリンダーブロックです。全部で25種類の木型から鑄造された砂型を用います。一方、金型は使用回数の多い大量生産用の型として使います。例えばエンジンのタイミングギアケースの鑄鉄FC250材金型は20万回から30万回の使用に耐えます。

神本：川口市にかつて600社あった鑄物企業が50社まで減ったと聞いています。このような状況で現在まで事業を続けてこられた大きな理由は何でしょうか？

田口：ひとつは25年ほど前に3D-CAD/CAMとCNC工作機械をいち早く導入したことです。手作業のアナログに比べて格段に精度とスピードがアップしました。例えば写真3ではCADのCGで、形状の完成した金型から中子の形状を反転して6気筒分の配置を決定しています。つまりCG内の検査シミュレーションにより中子の位置決めと製品肉厚の確認が行えるわけです。

当時ガソリンエンジンはアルミ化が進み、アルミダイキャストに進むことも考えましたが、鑄鉄鑄物にこだわり続けています。アルミはエネルギー多消費の海外の材料ですが、鑄鉄は材料が国内にある点も有利です。現在より薄い鑄鉄製品ができればまだまだアルミに対抗できるはず。ディーゼルエンジンを搭載するトラック4社が全て関東にあり、顧客であることも鑄物向け木型。金型を造り続ける上で有利に働いています。

神本：同時5軸CNC加工機は何につかうのでしょうか？

田口：この加工機が米国で発売されたとき、すぐ米国に飛び、購入を決意しました。ターボチャージャーやガスタービンのタービン用のロストワックス精密鑄造ワックスパターン及びアルミ製インペラー削り出しに使っています。背景写真は、同時5軸制御CNCマシンニングセンターで削りだしたターボチャージャーのインペラー（右）と加工前の材料（左）を示しています。（注：写真は現物の2倍程度に拡大）1999年に短期間で高精度のロストワックス製造法を考案して日本鑄造工学会から「豊田賞」をいただきました。

神本：木型・金型製作技能者についてお話し下さい。

田口：経験が必要な職業であり、一人前になるのに最低10年はかかります。したがって中学卒業が最も望ましいのですが、現在は高校卒が中心です。一般の大卒では遅すぎますが、「ものづくり大学」のように実践的な教育を受けた卒業生であれば充分やっています。

神本：技術者・技能者の教育と技能の継承についてのご意見をお伺いしたい。

田口：最近の工業系高卒と大卒の基本的能力のレベルが非常に低下しており、心配しています。また忍耐力、向上心などの精神面が弱い。良い技術者・技能者になるには小学校から国語、数学（算数）、体育の3教科に力を注ぐとともに精神面を鍛えることも必要です。技能の継承について言えば、製造業に限らず様々な職業の専門学校への志願者が増加し、16歳位から職業訓練が出来ることが望ましいのです。4年生大卒は技術の向上には寄与しますが、技能習得は困難です。優秀な技術・技能者の社会的地位を認め、尊敬する社会的風土と仕組みを作る必要があります。また優秀な技術・技能者には税制面での優遇措置も必要でしょう。

神本：中国との競争が激化していますが、今後の日本の「ものづくり」の方向についてお伺いしたい。

田口：20年前までは日本の鑄物は米国に次いで800万トンを生産し、世界第2位でした。現在は400万トンまで低下し、中国の2000万トン、米国の1000万トンに大きく水をあけられています。量的にはかないませんが、日本人のチームワークの良さ、高いモラル、教育水準を武器に精密な試作用型分野で勝負していきたいと思っています。

神本：貴重なお時間をいただき、どうもありがとうございました。今後の貴社の発展をお祈り致します。

さいたま市「人材高度化タスクフォース事業」に参加して 実施報告

ものづくり研究情報センター参与 尾藤 俊和 (びとう・としかず)



成果発表会の様子



多目的広場に咲く桜

ものづくり研究情報センターは、産官学連携事業、社会人教育及び関連事業に取り組んでいる。今回は、平成21年度にさいたま市が意欲的に取り組んだ、「後藤精工」、「さいたま市」及びものづくり大学3者による新しい連携事業の内容を紹介したい。

1. 事業の概要

さいたま市産業創造財団の実施する「人材高度化タスクフォース事業」として、ものづくり大学と後藤精工が協働して人材育成、開発研究に取り組んできた。事業は、学部4年生就職決定者を対象に、さいたま市が資金を助成、企業指向の研究テーマを取り上げ、企業と大学が協働して平成22年3月末まで研究開発と人材育成に当たる内容である。研究に当たるのは、企業の先端技術者と学生であり、指導は大学教員、企業の技術責任者が担当した。企業、大学が全面バックアップする中で、企業と大学の両者の施設設備を駆使し、その実験結果を指導者も交え検討協議しながら進められた。

2. さいたま市の挑戦

さいたま市は平成21年度事業として、優秀な人材を確保し、将来県内産業界で定着し、活躍できる人材の育成を目的とした、ハイレベル人材育成事業のトライアル的初年度事業に取り組んだ。人材育成の対象は、最終学年にある学部学生、大学院生、大学と関係を持ちながら社会にあって研究活動に従事している者の3パターンに分け実施した。本学からは、事業計画時に、さいたま市内の有力企業である「後藤精工」に既に就職内定済みの学部学生2名を対象として、本事業への参加が採択された。

3. 企業のねらい、大学の視点

企業側は、入社後、社会人としての素養を備えたスタートダッシュができる事を目標に進めた。

一方、大学側は、問題の捉え方、解決に当たっての手法、作業に耐える根気の育成など、研究姿勢の習慣化を育てていった。

4. 展開

本学から参加した学生は、指導者に恵まれた二つの研究室を拠点に、それぞれの研究テーマを背負って3月末を目指し努力を重ねた。途中、後戻りや挫折を経験しながら、期限前には成果をまとめた。

5. 成果発表会

3月23日(火)午後、発表会が開かれた。関係大学の教員、さいたま市テクニカルブランド企業の事業主、関係者等多数が出席する中で、成果が順次発表された。ものづくり大学の両学生は、苦闘の成果を盛り込んだ資料を片手に、しっかりした態度で報告をし、会場から賞賛を得た。

6. まとめ

将来企業が必要とする課題をテーマとしたこと、就職先の現場に一足先に入り、企業活動の一端を担ったこと、など、大学から企業への流れを円滑にし、社会人として心構えや企業へのアイデンティティの発生など、研究成果に留まらず、多様な成果に結びついた。



東京木工場でのインターンシップ風景



清水建設東京工場が保管する貴重な木材

【カリキュラムの流れ】

工場見学 → 木材の乾燥・木取・加工について → 塗装について → 単板の採取・選別 → 化粧合板の製作実習 → 各種造作実習 → 親子向け木工教室のアシスト作業 → 工場製作品の現場取り付けについて → 修了課題



修了課題

【事業者紹介】

清水建設株式会社 東京木工場
http://www.shimz.co.jp/corporate_information/mokkouzyou/index.html

建設学科のインターンシップについて

建設技能工芸学科 講師 佐々木 昌孝(ささき・まさたか)

ものづくり大学の建設技能工芸学科では、日ごろ大学で学んだ知識・技術・技能を確認する目的で、学外企業で学ぶインターンシップをカリキュラムに取り入れています。2年生で40日間の基礎的なインターンシップに行き、4年生でさらに専門的なインターンシップ(40 or 80日)に行きます。学生たちは、インターンシップを経験することで、実践的な知識と技術と技能を習得し、また就職力を身に付けます。

今回紹介する清水建設株式会社東京木工場には、毎年、建設学科学生がインターンシップでお世話になっています。

東京木工場では、4年生の専門インターンシップの学生を受け入れてくださっています。40日間の専門インターンシップが本学の学生にとって可能な限り有意義なものになるように、学生レベルにあわせた専用カリキュラムを組んで、木工のいろはをご指導くださっています。

カリキュラムの最後には修了課題が待っており、これをクリアした学生たちは、一回りも二回りもたくましくなった顔をして大学に戻って来ます。

本場に所在する東京木工場で見聞きするものすべてが、学生にとって新鮮で刺激的なものなのですが、なかでも、東京木工場が得意とする高品質な製品を製造するために現在では入手困難な木材が数多く保管されていることに感動する学生が多いようです。大学の木造実習では、建築材料として一般的なヒノキ、スギ、ツガ、マツなどの針葉樹を扱う事が多く、家具で使われるような広葉樹に触れる機会は、1~3年生の授業ではさほど多くありません。東京木工場から帰ってきた学生は、インターンシップ中にもらった様々な種類の木片を使ってオリジナルの材鑑(木材サンプルセット)をつくり、それを嬉しそうに説明してくれます。

東京木工場では、若い作業員の育成に大変力を入れており、そんな若手育成の一つの成果として、昨年(2009)開催された第47回技能五輪全国大会の家具職種において、東京木工場所属の選手4名が金銀銅を独占する(金1・銀2・銅1)という偉業を成し遂げました。同大会で金賞を獲得した外山紗江さんは、本学の卒業生(建設・第4期生)で、彼女も4年次の専門インターンシップで本場に通った学生の一人です。

また外山さんは、卒業研究で、ベトナム最後の王朝・阮朝の王宮内家具を実測調査し、それを自ら実際に制作しましたが、このような卒業研究を行えたのは、東京木工場のインターンシップ経験があったからこそです。

木が好きで、家具が大好きな若者の夢と希望を受け入れてくれる東京木工場のような企業のご協力があったからこそ、本学のインターンシップは成り立っています。

清水建設の歴史は江戸末期に遡り、木工場は明治17(1884)年に開設されました。そんな宮大工の時代より連綿と受け継がれているのは、貴重な木材や技だけではなく、やはり「ものづくり」の心なのだと思います。日本のトップクラスの木工技術をユーザーに届け、そして、それを若手技術者に伝える、この心こそが東京木工場の強さなのだと思います。

日本のものづくり現場に刺激を与え続ける清水建設東京木工場の更なるご発展、外山さんの更なる活躍を期待して、今回の記事を締め括りたいと思います。

VOICE

VOICE…オトクツ編～オープンキャンパスにて～

今回は(3/27)のオープンキャンパス取材してきました!!

今回は学内をブラッと巡り『これは面白そうだ!!』と思ったものを私が独断と偏見で取材します!!

そんな訳でその日目に付いたのはM2080 菅谷研よりオトクツ…

テレビ局も取材に来るなかなかの逸品です!! 早速製作者の一人である的場やすしさんに取材させて頂きました…



Q1: オトクツのコンセプトは?

A: 『楽しく演奏でき、足で使える楽器』というところです。

Q2: 使用用途は?

A: よくギターを弾きながら歌ったりハーモニカを吹いたりしますよね?
そこにオトクツが加わる事で演奏の幅も広がり舞台にも華やかさが増します。
後は病院などでの足のリハビリに使用して頂けたらと思っています。オトクツを演奏することにより辛いリハビリも楽しくでき、楽しいという事は自分から前向きに頑張れるという事につながりますから…。

Q3: どんな工夫をしました?

A: そうですね…まずは音だけでは面白くないので『光を出そう』と思いました。

次に『誰でも弾けるように楽譜の改善』ですね。楽譜に足の位置を割り当て、そして先ほど言った光を割り当てる事で自分がどの音を鳴らしているかを分かるようにしました。

後は『履きやすさ』ですね。誰にでも履けるように市販のサンダルの上面の抑えを縦に切り紐を通しました。

Q4: 一番苦労したところは?

A: オトクツを鳴らすときのセンサーの位置ですね。足に対して十字か対角かで迷いました。踏みやすさを考慮して結局十字になりましたが。

Q5: 今後の課題は?

A: 課題はやはり材料と強度ですね。今のままでは立ったままの演奏は難しいですし、それに履いてるものが負担にならないように軽く強い素材が必要です。あとは、コストです。これをクリアしなければ量産化も出来ませんからね。

突然の取材にもかかわらず快く応じてくれた的場さん、本当にありがとうございました!!

取材/文芸部 製造3年 野口 陽太
写真/文芸部 製造3年 笠島 英輝

卒業生に聞く



戸田 祥史 (とだ・よしふみ)
学 科: 製造技能工芸学科
卒 業 年: 2005年(1期生)
出身研究室: 山崎研究室
現在の勤務先: ㈱キッズ・コーポレーション

■ 現在どんな仕事をしていますか?

大学・短期大学・専門学校などから広告費をいただき、学校紹介などの冊子を作成しています。また、作成した冊子を高等学校へ無料で配布したり、高等学校内での進路指導のイベントなどを企画、実施なども行っています。その中で、私は企画営業課として毎日各学校へ行き、入試広報の方であったり、進路指導部の方であったりと、色々な人にお会いし、営業活動を行っています。もちろん、ものづくり大学にも営業に行っています。どうしたら、母校を日本一の大学に出来るか、広報の方とお話をさせて頂いています。

■ 大学生活の思い出、印象に残っていることは?

1期生ということもあり、色々な事を一から作りました。学園祭を一からみんなで作り上げたり、部活動ではバスケットボール部をみんなで盛り上げていきました。

学園祭は、第1回から始まり、数年間実行委員として携わりました。1回目こそ、年長者の方々が中心になりやってくれましたが、その後は同年代の仲間と1回目よりも、2回目、2回目よりも3回目と少しでも良いものを作ろうと、みんなで話し合い、時には喧嘩しながら作り上げました。部活動では、製造学科、建設学科関係なくみんなで集まり、汗を流し色々な方との交流を深めました。これら一つひとつの事が、すべて思い出であり、今でも印象に残っています。

■ 現在の趣味など仕事以外で楽しんでることは?

今でも、バスケットボールは続けています。大学の時の仲間とも一緒にやったりもしています。趣味ではありませんが1歳になった息子がいて、日々の成長を楽しみにしています。

■ 大学で学んだことで役にたっていることは?

私は製造学科だったのですが、就職先は製造業とは違います。ですので、授業で学んだ事が直接、役に立っていることは残念ながら多くありません。しかし、間接的に役に立っているような事は多々あります。例えば、チームワークです。FゼミやLゼミなどで、チームで一つのものを作り上げる大変さ、大切さを学びました。それは、現在の職場でも十分に活かされています。また、マネジメント論なども少しずつですが、活かされています。当時は、なかなか理解出来なかった部分も、社会人になり仕事を覚えていくうちに少しずつ理解出来てきます。みなさんも、今は役に立たないと思ってもいつか役に立つ日が来ます。その日のためにも今出来る事は精一杯やった方が良いでしょう。

■ 今後どんな大学になってほしい?

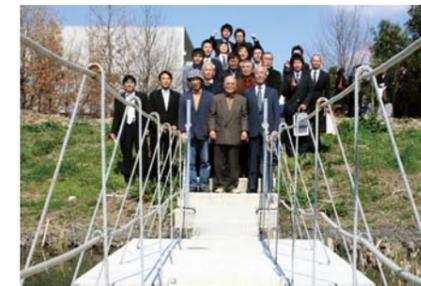
学生時代から、せっかくなら日本一の大学になってほしいと、友人とよく話をしていました。その思いは今でも変わっていませんし、仕事柄いつも気にしています。開学当初の理念を忘れる事なく、他大学に流されないような学校になって欲しいと思います。そして、授業だけでは学べない知識、経験を得られるような学校になってくれたら嬉しいです。

就職情報

厳しい就職環境の中、6期生も
90%の就職率を達成

リーマンショック以来の大不況といわれ、また就職氷河期以上の就職難と言われた今年の第6期卒業生は、就職活動に苦戦を強いられました。それでも皆頑張った結果、90%を超える就職率となりました。まだ卒業後も就職活動をしている卒業生もいます。次の7期生も就職活動真っ最中です。先輩の皆さん、是非、応援をしてください。

実習で建設した浮橋「坂東太郎橋」の開通式が卒業式(3/19)に行なわれました。



4月5日(月)体育館にて、ものづくり大学および大学院の入学式が執り行われました。



式辞を述べる梅原総長

第3回ものづくり大学
同窓会総会開催のお知らせ

第3回ものづくり大学同窓会総会を開催致します。本年は大学設立10周年の節目となるため、昨年度大好評だった「親子ものづくり教室」に加えて、卒業生による就職講座など在校生と卒業生とが交流できるイベントを企画中です。総会終了後には懇親会も予定しておりますので、皆様の多数のご来場をお待ちしております。なお、本年から土曜日に開催することになりましたのでご注意ください。詳細は、随時同窓会ホームページでお知らせしますのでご覧下さい。また、新たに同窓会と大学の日々の活動に関するブログを立ち上げましたので併せてご覧下さい。ブログは、同窓会のトップページにリンクを貼ってあります。

開催日: 平成22年10月30日(土)
時 間: 14:00~
場 所: ものづくり大学学生会館2階(予定)

ホームページ
http://www.iot.ac.jp/dousoukai_neo/index.html

2010年度オープンキャンパス開催日

オープンキャンパスは、進学先を決めるうえで、極めて重要なものです。毎年、多くの生徒さん、その保護者の皆さんに参加いただいております。

開催日程	2010年6月	13日(日)	Wiiの仕組み、住まいづくりのABC
		10日(土)	自動車開発ストーリー、東京スカイツリーの構造
		19日(祝)	(平常通り授業があります)
	7月	31日(土)	音・オーディオの基礎、コンクリート強度試験
		7日(土)	suica pasmoの仕組み、地震に強い家
		15日(日)	櫛アマガ加工デモ、家が建つメカニズム
8月	21日(土)	3次元プリンタデモ、建築デザイン	
	2011年3月	26日(土)	
時間	10:30 ~ 16:00 (10:00受付開始)		
開催内容	大学説明、キャンパスツアー、模擬授業、ドミトリ(学生寮)見学、学食体験、個別相談、特別イベント ほか		

当日は、JR高崎線吹上駅より無料送迎バスを運行します。

個別大学見学 受付中

平日の見学を受付けています。
お1人でも、お友達とでも、ご家族とでも、お気軽にお越し下さい。

お申し込みは、048-564-3816
ものづくり大学 入試課まで

合同説明会



屋内実習場見学(製造)



キャンパス内風景



屋外実習場見学(建設)

2011年度入試の日程は次の通りです。

種別	出願期間等(消印有効)	選考日	合格発表日	入学手続期間
推薦入学試験 (指定校制 ※1) (公募制 ※2)	A日程	11月1日(月)~11月15日(月)	11月20日(土)	11月25日(木)~12月9日(木)
	B日程	11月26日(金)~12月8日(水)	12月11日(土)	12月16日(木)~1月4日(火)
A〇入学試験(I~Ⅳ期 ※3)	エントリー期間 6月14日(月)~3月1日(火)	随時面談	8月26日(木)~3月17日(木)	8月26日(木)~3月23日(水)
特待生入学試験	ものづくり特待生 ※2	11月26日(金)~12月8日(水)	12月11日(土)	12月16日(木)~1月4日(火)
	入試センター利用	1月4日(火)~1月28日(金)	—	2月5日(土)~2月15日(火)
	学力試験	1月4日(火)~1月28日(金)	2月2日(水)	2月5日(土)~2月15日(火)
一般入学試験	A日程 学力試験	1月4日(火)~1月28日(金)	2月2日(水)	2月5日(土)~2月15日(火)
	B日程 学力試験	1月31日(月)~2月17日(木)	2月22日(火)	2月24日(木)~3月11日(金)
	C日程 プレゼンテーション・総合試験	2月21日(月)~3月17日(木)	3月23日(水)	3月25日(金)~3月30日(水)
入試センター利用試験	A日程	1月4日(火)~1月28日(金)	—	2月5日(土)~2月15日(火)
	B日程	1月31日(月)~2月17日(木)	—	2月24日(木)~3月11日(金)
	C日程	2月21日(月)~3月17日(木)	—	3月25日(金)~3月30日(水)
後継者・社会人、帰国子女、外国人留学生入学試験	A日程	11月1日(月)~11月15日(月)	11月20日(土)	11月25日(木)~12月9日(木)
	B日程	1月31日(月)~2月17日(木)	2月22日(火)	2月24日(木)~3月11日(金)

※1 指定校については、各高等学校の進路指導部にご確認ください。
 ※2 公募制のものづくり特待生は一浪生まで出願できます。
 ※3 A〇入学試験は、期がI~Ⅳ期に分かれています。A〇入学試験ガイドまたは大学ホームページでご確認ください。

- 特待生は年間授業料全額(88万円)免除
- 授業料の4分割納入可能
- 自動車での通学可能(キャンパス内に駐車場有)

2010年度 Calendar

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日・行事など	2 行田とものづくり大学を結ぶコンサート 5 入学式 29 昭和の日: 平常授業	4 行田市: さきたま火祭り 15-16 行田市: 蔵めぐりスタンブラリー	13 オープンキャンパス	10 オープンキャンパス 中旬 行田市: 古代まつり 19 海の日: 平常授業 下旬 行田市: 浮き城まつり 31 オープンキャンパス	7 オープンキャンパス 15 オープンキャンパス 21 オープンキャンパス		29 碧蓮祭準備日 30-31 第10回碧蓮祭(技能まつり予定)	初旬 推薦入試出願受付開始 中旬 行田市: 商工祭・忍城時代まつり		14 センター試験前臨時休業 15-16 大学センター入試 下旬 卒業研究発表会	11 建国記念日: 平常授業		18 卒業式 26 オープンキャンパス
学期(クォーター)	1Q			2Q			3Q			4Q			
図書情報センター	1~6 通常 短縮 延長		5/28~6/10 延長	7/27~8/9 延長 10~16 休館	8/17 短縮	9/24 短縮	29 休館	17~30 延長	24~27 短縮 12/28 1/3 短縮 休館	4 短縮 14 休館	2 休館 4~17 2/18 延長	3/11 短縮 14 休館 31 休館	

* 各記事の詳細につきましては、ものづくり大学ホームページをご参照ください。
<http://www.iod.ac.jp/>

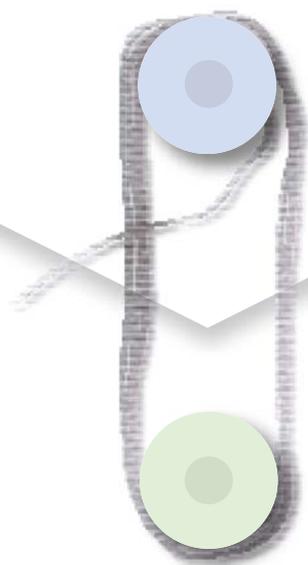
公開ものづくり教室と交流事業(2010年度)

お問い合わせは 048-564-3895 ものづくり大学教務情報課まで

テーマ	開催日	募集対象	参加費
1 火薬ロケットを打ち上げよう	7月10日(土)	小学生以上 (小学生は保護者同伴)	500円/人
2 鋳物で銀のペンダントづくり	7月20日(火)~22日(木)まで3日間	高校生以上の女性	1,000円/人
3 コンクリートで動物の置物づくり・手形づくり	7月24日(土)	小学生 (保護者同伴可)	500円/人
4 自分のリズムでタンタン鍛金	8月7日(土)~8日(日)まで2日間	小学生~一般 (保護者同伴可)	500円/人
5 ちょっとかわった筆箱を作ろう	8月中旬	小学生~一般 (保護者同伴可)	500円/人
6 画伯になろう	8月中旬	小学生~一般 (保護者同伴可)	500円/人
7 楽しい竹細工教室 (学園祭と同時開催)	10月30日(土)・31日(日)	小学生~一般 (保護者同伴可)	無料
8 マンガンカーレース大会 (学園祭と同時開催)	10月30日(土)・31日(日)	行田市内の小学生	無料
9 折り紙建築教室 (学園祭と同時開催)	10月30日(土)・31日(日)	小学生~一般	無料

『ものづくり大学通信 VOL.2 NO.1』

発行日: 2010年5月12日
 発行人: 神本武征
 編集長: 増渕文男
 デザイン: 藤原成暁
 文芸監修: 平谷雄二
 編集: ものづくり大学通信編集委員会



お問い合わせ先



〒361-0038 埼玉県行田市前谷 333 番地

TEL 048-564-3200

FAX 048-564-3201

E-Mail tsushin@iot.ac.jp

<http://www.iot.ac.jp/>